

C20c 千葉大学サイエンスプロムナードと3Dシアターによる科学普及活動

松元亮治(千葉大理)、宮路茂樹(千葉大自然)

千葉大学では2001年に完成した理学系総合研究棟1,2階部分の吹き抜けを「触って、遊んで科学と親しもう!」を合い言葉にした科学の散歩道(サイエンスプロムナード)として平日、土曜午後に一般公開している。サイエンスプロムナードでは、流れる粉、液体モーター、原子が作るピラミッド、彼岸花の多様性、モンスター群、超臨界流体、レーザーホログラフィーなど、最先端の研究と直結した展示物に交じって宇宙シミュレーション結果の画像を常設展示している。中庭にはフーコー振子も設置された。展示物のデザインはプロのアーティストが担当し、理学部や教育学部の学生が解説を担当している。展示物の向こうには実際に大学院生たちが研究をしている研究室が見えるようになっている。ちなみに、2階部分は高校から大学への飛び入学の実施機関である「先進科学教育センター」である。見学者の感想なども紹介したい。

サイエンスプロムナードと隣接する建物の1階には液晶シャッター方式の眼鏡をかけることによって立体画像を見ることのできる3Dシアターが完成した。現在、バーチャル宇宙体験ができるコンテンツの制作などが進められており、公開講座、スーパーサイエンスハイスクールのスクーリング等に利用される予定である。

以上のような千葉大学における科学普及活動について紹介する。